

8月31日 教育子ども委員会（青木ともこ議員・さいとう愛子議員）

道理なし!

若宮商業 突然の閉校

2019年度に募集停止・22年3月末廃止

8月31日に名古屋市教育子ども委員会で、少子化や施設の老朽化を理由に、市立若宮商業高校（天白区、生徒数約700人）の生徒募集を2020年度入学分から停止し、22年3月に閉校する計画が発表されました。閉校後の跡地については特別支援学校の高等部の開設などを検討していますが、公的利用が難しい場合は売却・貸し出しも予定されています。

なぜ閉校か—各会派から疑問の声

市は閉校理由として、少子化で20年後には市内中学卒業生が約3500人減る見込みであること、校舎の老朽化で維持費等がかかるため学校施設などを削減すること、普通科などと比べ商業科の志望倍率が低いことなどを挙げています。しかし同校は定員割れしておらず、企業の求人数も多いことなどから、委員会では各会派から疑問の声があがりました。

2017年 9月	意見公募
12月	計画決定
2019年度	募集停止
2022年3月末	閉校

生徒数の減少について、青木議員は「近年の市内の子どもの数は横ばいで、出生率は少しあがっている。生徒増加の可能性もある。生徒数が減るとしても、クラスを減らすのではなく高校ごとなくするのは乱暴」と批判。さいとう議員は「愛知県の計画進学率は93%と全国最低。廃校ではなく生徒が増えるよう努力をするのが教育的立場」とただしました。

高い志願倍率、地元企業への就職率

同校には総合ビジネス科・情報ビジネス科・会計ビジネス科の3学科があり、1学年240人の募集に対し志願倍率は例年1.8~2.5倍で推移しています。青木議員は「同校は定員割れしておらず、地元企業への就職率は6割、市内からの通学も85%と非常に高い。若宮を閉校する理由がない」と指摘。さらに閉校した場合240人分の生徒受け入れ先が確定していないことを批判しました。

在校生・市内業者にも動揺が

市は「在学生への配慮や受験生への事前周知の観点から、生徒募集を2019年度入学生までとした」としていますが、既に市民には波紋がひろがっています。青木議員は「若宮は今年度から制服をリニューアルしたばかり。学校関係者にも閉校計画は知らされていなかったのではないか」「突然閉校が取りざたされ、若宮に問題が有るのではないかという噂が就職先企業に広がり、採用についても影響が出始めている。それが生徒にも伝わっている」と、実態と当事者の声を紹介。若宮商業閉校に合理性がないと同時に、当事者ぬきで突然計画を公表したことに市民が混乱していることを指摘しました。

在校生の保護者は…

私の娘は足が不自由ですが、若宮は家から近く通学は助かっていた。金銭面で私立に通わせることが出来ない家庭にとって市立の若宮はなくてはならない高校です。閉校すれば子どもの貧困対策に逆行するのではないのでしょうか。

名古屋市教委 維持費不足 生徒数は減

教員・生徒 定員割れなし 企業 いい人材



2017年8月31日、名古屋市教育委員会委員会で、若宮商業高校の閉校が決定された。同校は天白区にあり、2017年度は定員割れがなかった。しかし、市教委は「少子化による生徒数の減少が原因で、2020年度入学分から募集を停止し、2022年3月末に閉校する」と発表した。この発表に対し、教員や生徒からは「定員割れがないのに閉校するのはおかしい」と疑問の声があがった。また、地元企業からは「優秀な人材を失うことになる」との懸念も示された。

少子化を理由に、名古屋市教育委員会は31日、市立若宮商業高校（天白区）を2019年3月末で閉校する方針を示した。愛知県では、商業高校の総合学科への転入などがあるが、閉校は初めて。「いきなりなせ」との声も出ている。市教委は「少子化による生徒数の減少が原因で、2020年度入学分から募集を停止し、2022年3月末に閉校する」と発表した。この発表に対し、教員や生徒からは「定員割れがないのに閉校するのはおかしい」と疑問の声があがった。また、地元企業からは「優秀な人材を失うことになる」との懸念も示された。

若宮商業高 22年閉校方針

少子化を理由に、名古屋市教育委員会は31日、市立若宮商業高校（天白区）を2019年3月末で閉校する方針を示した。愛知県では、商業高校の総合学科への転入などがあるが、閉校は初めて。「いきなりなせ」との声も出ている。市教委は「少子化による生徒数の減少が原因で、2020年度入学分から募集を停止し、2022年3月末に閉校する」と発表した。この発表に対し、教員や生徒からは「定員割れがないのに閉校するのはおかしい」と疑問の声があがった。また、地元企業からは「優秀な人材を失うことになる」との懸念も示された。

■閉校に疑問を持つ若宮商業の生徒の声
・この学校がなくなれば公立高に入れない。母校がなくなるとはほしくない。
・名古屋で少ない商業高校をなくすべきではない。
・若宮商業に行きたいと思っている中学生は多いと思うし、卒業した先輩たちも閉校してほしくないと思う。
・明るく楽しい学校で、部活動にも熱心。充実した生活を送ることができ。
・部活の先輩や新しい友達に出会えたのも若宮商業があったから。思い出が詰まった母校がなくなるのは嫌だ。
・理由を知らされていない。なぜ若宮商業なのですか。

今年度の志願倍率は1.8倍、過去5年間で2.49倍、89倍と比較的高いが、市教委は「志願倍率が高いが、一般入試の第一志望判断、今年度の志願倍率は0.81倍」とした。この日の委員会で、市教委からは「11月の募集停止で、閉校の理由を説明する」と話した。若宮商業は1963年開校。総合ビジネス、情報ビジネス、会計ビジネスの3科で生徒約700人。昨年度の求人数は880人、今年度は旅行会社やホテルなどの就職先を確保し、制服も新しくした。毎年、卒業生を採用している地元企業は100社以上と、閉校は「突然なことで、真面目に働いている人財を送り出さなくなる」と懸念を示している。また、若宮商業は「1963年に開校して以来、地元企業と連携を深め、卒業生を採用している」と話した。